

の平均値12分, 経産婦62例の平均値7分。

圧迫法施行例は, 初産婦21例の平均値8分, 経産婦16例の平均値4分。圧迫法は引き続き実施し, 圧迫器は東一光学で試作させた。

93. 適時分娩誘導による児仮死率, 死亡率の減少に関する研究

(水戸赤十字)

梶 英雄, 吉田 澄子, 岩崎瑠璃子,
高崎 重美

予定日超過分娩は殊に初産の場合, Feto-Placental Disproportion (F.P.D) の為, 或は Placental Dysfunction syndrome の為か, 児の仮死率, 死亡率が増加する。殊に妊娠中毒症等の合併する時はこの傾向が強い。

私は児仮死率, 死亡率を減少さす目的で, 妊娠38~41週に児が充分成熟し, 子宮筋の陣痛に対する感受性がたかまり, 又子宮口, 頸管等も分娩準備状態になった例に, 卵膜用指剥離, Bougie 挿入, Estriol, Manetol 注射, 更に要すればアトニン-O 又はシントシノンの点滴静注を併用する事により, 人工的に陣痛を発生せしめ,

適時分娩誘導を行った。216例中児死亡率0%, 仮死率5例(2.3%), 帝切11例(5.1%), 鉗子6例(2.8%)である。

一方保存的処置をとった対照の児死亡率は2例(0.925%), 仮死率は17例(7.8%) (内第2度6例2.8%)であり, 帝切は8例(3.7%), 鉗子は10例(4.2%)であった。この様に誘発群の方が児仮死率, 死亡率共に保存的対照群より減少した。誘発から分娩迄の時間も比較的少く, 充分なる注意をもつて行えば, 母児共に安全な分娩誘導と考えられる。

結論: 妊娠38~41週に, 児が充分成熟し, 子宮筋, 子宮頸管等が分娩準備状態になった216例に, 卵膜用指剥離, Bougie 挿入, Estriol 注射, 更に要すればアトニン-O, シントシノン点滴静注による適時分娩誘導により, 児仮死率, 死亡率を, 非誘発例に比し減少さす事が出来る。妊娠中毒症等の合併する場合は殊にこの方法は効果があると思われる。

(尚誘導の時期については, 頸管粘液の結晶形成現象の有無, 陰脂膏像等に関して検索中である。)

第13群 妊娠中毒症に関する問題

94. 妊婦中毒症における皮膚反射点について

(都立大久保)

紅林 康, 笠島 欣一, 村越 充明,
井田 和美, 与那覇政勝, 阿多 雄一

妊娠中毒症は初期と晩期によつて, みかけ上は著しい差のある様にみえる。この際皮膚反射点の分布に或いは差異が現われるかと考え, 先ず Electrodermometer を用いて測定し, 内臓皮膚反射の出現様式を検討してみた。また中毒症の軽重についての差異についても, あわせて比較する予定である。

95. 妊婦血清中の β -N-acetylglucosaminidase, 特に妊娠中毒症との関連について

(東大分院) 古谷 博, 吉邨 勝次

(自衛隊中央研究部生化学) 岸浪菊江子

生体内に普遍的に存在し, 種々の分泌液, 水晶体, 軟骨, 臍帯などの重要な成分であり, 授精現象にも関連性のある hyaluron 酸は細胞間の結合, 血管壁の安定性, 感染, 炎症などにも密接な関係がある。その構成要素としては N-acetylglucosamine と glucuron 酸とがあり,

hyaluron 酸は先ず hyaluronidase によつて水解され, ついで β -glucuronidase と β -N-acetylglucosaminidase (β NAG) によつて末端から交互に分解されて行くといわれている。

われわれは既にわが領域における糖蛋白, muco 蛋白, sialicacid など一連の近縁物質の有義を検討してきたので, 今回はこの β NAG に関する知見を報告する。

1) 基質として phenyl-N-acetyl- β -D-glucosaminide を用い, これに被検血清又は胎盤抽出液を加えて incubate し, 遊離する phenol 量を定色法で測定し, その量をもつて酵素活性とした。2) 正常婦人の月経周期における β NAG は殆ど変動がない。3) 妊娠第5カ月頃より酵素活性は直線的に上昇して妊娠末期に最高となり, 分娩第4日目までに急激に低下して正常値となる。早産においても分娩後急に低下する。4) 肝・腎の疾患, 癌などでも上昇するが, 妊娠後半期のそれには遥かに及ばない。5) 新生児の血清 β NAG は母体のそれより著しく低い。6) 胎盤組織中には大量の β NAG が存在する。7) 晩期妊娠中毒症の血清 β NAG は, 高血圧を伴うものでは正常妊娠に比しその上昇程度が少く, 浮腫型で